

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	利用者や、家族からの情報収集を行い、また日々の関わりなどを通じ、個々に合った関りを常に心掛け、行っている。		その人らしい生活が送れるよう、利用者や家族の状況を把握し、個々に合った関わりを持つことを日々、心掛け行っている。
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日々の申し送りやミーティング・カンファレンス等の中で、介護に対する考えなどが話しされ、職員に周知できるように努めている。		職員それぞれの考えもくみ取りながら、日々の話し合いの中で、思いを共有し合い理念の元、ケアを行っている。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	町内会・民生委員などの方が参加する運営推進会議や事業所で行われる勉強会への参加を呼びかけ、グループホームや認知症についての協力や理解を深めてもらうように努めている。また、家族には面会時の他に、手紙やホーム便りにて様子を伝えている。		地域の方に、認知症の理解を深めてもらえるよう、行事や勉強会への参加お呼びかけ、グループホームへの理解と協力を得られるよう、これからも関わりを持ち続けていきたい。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方々と挨拶を交わしたり、学校帰りの子供たちが立ち寄ることもある。また、グループホーム周辺の草刈を近所の方と利用者や職員一緒に行うこともある。		屋外に出て、地域の方々と自然に交流が持てる雰囲気作りや関わりを、これからも心掛けていきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、お祭りや盆踊り、老人クラブに参加し、地域の方との交流する機会を作っている。近所の小学校と連携を取り、'子供100番'に加盟をしている。また、ホーム内の勉強会などの際、町内の方に案内をし、一緒に学ぶ機会もある。		子供たちや同年代の方々などとの触れ合いの中で、昔を思い出し、懐かしむ機会が持っておりこれからも、そのような場を提供できるよう努力していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議や勉強会を通じて、地域の高齢者などに役に立てるような情報提供の機会を作ったり、困った事があれば、いつでも相談できるようその機会などで呼び掛けている。		気軽に地域の高齢者の方や、家族が相談したい事・聞きたい事を持ち込みやすい関係作りにもこれからも努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価を行う事の意義を理解し、振り返りの機会として、評価項目に沿って確認を行い、サービスの質の向上に役立てることの大切さを職員が理解し、取り組んでいる。</p>	<p>今までの自分たちの視点に、外部の方々の目加わること、客観的に自分たちを振り返ることができ、またそれを活かし、よりよいケアに繋がれるようこれからも努力していきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>評価への取り組みの状況を、運営推進会議で率直に伝え、その機会を通じて再度十分に認識を深め、サービスの質の向上に努めている。</p>	<p>今後も運営推進会議を通じて、グループホームの日常を伝えていき、そこから情報や意見をもらいながら、サービスの向上に繋げていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じ、市町村担当者行き来する機会を作り、取り組んでいる。</p>	<p>職員の研修会に参加し、サービスの質の向上に努めている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会や運営推進会議に地域包括支援センターの方を招き、学ぶ機会を作っている。</p>	<p>必要な方には、制度が活用できるように、職員が学び、活かしていけるよう努めていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>地域包括支援センターの方を招き、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、職員の理解を深めている。</p>	<p>定期的に、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を作っていきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>紙面だけの情報に頼ることなく、入院先や自宅を訪問し、利用者や家族と十分に話し合いをし、不安や疑問の解決に努め、理解を得ている。</p>	<p>今後も、利用者や家族と十分に話し合いを行い、不安や疑問が軽減・解決できるよう情報の提供を行い、理解を得られるよう努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の関りの中から利用者の意見を伺うとともに、玄関に“意見箱”を設置し、それを通じて意見交換を表現できる場の提供を行っている。		“意見箱”の設置と合わせて、例えば、定期的にアンケートを実施するなどをして、意見を機会を検討し、運営に反映して取り組んでいきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	体調不良にて、突発的に受診が必要などときには、結果と合わせてその都度電話にて報告を行っている。面会時に利用者の様子や預かり金の使用状況などをお伝えすると共に、毎月手紙や写真にて、近況報告や行事への家族参加の呼びかけなども行っている。		家族の面会時には、その都度近況などを伝えており、その他にも、相談事や確認したいことなど話す機会を作っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に、苦情・相談受付窓口について明記し、入所時に説明を行っている。また、玄関に意見箱”を設置している。		家族からの要望・意見・苦情があったときには、早急に対応し運営に反映させていきたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月管理職会議を行い、その結果を全職員に書面を通じて伝えている。意見や疑問点があれば、その都度管理者に報告し、その場で話し合いを行ったり、会議の議題として提案し、意見反映に努めている。		これからも継続して行っていけるよう努めていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の受診や、行事を企画した際には、それに応じた職員の人数を配置したり、勤務時間の調整を職員と話し合いをしながら取り決め、柔軟な対応ができるように心掛けている。		利用者の状態を踏まえそれに合わせ、継続して行っていけるよう努めて行きたい。
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者の状態や、職員の人数などに応じてローテーションを組む場合は、必要最低限度に抑えられるよう考え、利用者に影響が少ないように配慮をしている。		これからも利用者の状態を踏まえ、継続して行っていけるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>管理者が積極的に研修を受講するよう勧めている。受講後は報告書にまとめ、勉強会にて報告をしている。また、ホーム内の勉強会で、企画・準備・発表を通じて、その議題について、新たに勉強する機会に繋がっている。</p>	<p>これからも職員の経験などの状況に応じて、勉強会や研修会への参加を積極的に勧め、行っていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>定期的に管理者連絡会議に出席をし、地域の同業者との情報交換や交流をはかっている。またそれにより、サービスの質の向上や、ネットワークが取れている。</p>	<p>他のグループホームとの勉強会や研修を一緒に行うことで、交流をはかり、ケアの情報交換ができるよう努めていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の日々の様子を気にかけて、悩みや不安などがないか話をする機会を作っている。また、親睦会や忘年会などを開き、職場から離れた所での関りも持ち、ストレスの軽減の場を作るようにしている。</p>	<p>定期的開催する機会を作ることで、互いの悩みや思いを共有できる場とし、よりよいチームワークを築くことができるよう、これからも取り組んでいきたい。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>研修や講習会の情報を伝え、学ぶ事の大切さを個人個人が感じ取れるよう呼びかけ、向上心が持てるよう努めている。</p>	<p>今後も継続して職員に呼びかけを行い、研修を通じて自身を振り返り、これからのケアなどに活かせるよう努めていきたい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前にその本人のいる入院先や施設、自宅などに訪問し、直接本人と話をしながら、不安なこと・困っていることなどを十分に聞き、受け止めるよう努めている。</p>	<p>できるだけ、入居前に生活をしている場所で聞き取りを行う事で、その利用者の普段の状態を垣間見ることができ、また、何度か訪問を重ねることで、入居時には多少顔馴染みの関係となり、これからの信頼も築きやすいので、可能な限りそのような関わりを続けていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>利用者のみならず、家族が困っていること・不安なことにも十分に耳を傾け、その背景を話しをしながら探り、受け止めるよう努めている。</p>	<p>入居前からその利用者のみならず、関ってきた家族の思いを聞きだし、共感しながら、これからのについて一緒に関っていくことをこれからも大切にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	その利用者にとって、まずどんなことが必要な支援かを、情報や聞きとり・利用者の状況を見極め、その人に合ったサービス利用の対応に努めている。		利用者と家族に情報の提供を行うと共に、その人に合ったサービスを話し合いながら提供し、対応していきたい。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	入居前にグループホームの見学や、体験入居を行ったり、事前に訪問を重ね、少しでも顔馴染みの関係が築けるよう努力をしている。		事前に何度か訪問をすることで、徐々に顔馴染みの関係が築け、入居後も比較的落ち着いて過ごすことができるがあるので、利用者の不安を軽減するためにも、続けて行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	生活を共に送りながら、一方的な関わりとならないよう、利用者の言葉や表情・行動などにも目を配り、共に共感したり、利用者から学ぶ機会や活躍できる場面を作っている。		職員が利用者から、戦時中の体験や苦労話・昔の唄などを教えてもらったり、家事を率先して行ってくれる関係を大切に、活躍できる場面を提供し、ともに生活を送りたい。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	家族からも介護を通じての苦労話や、入居前のエピソードなどを面会の際に伺い、こちらからの情報提供とともに、グループホームでの生活を通じ、その利用者の状況を共感・共有している。また、それにより、ともに利用者を支えていく関係作りに努めている。		家族の苦労や悩みを聞き、理解する機会を作り、家族も含め、ともに利用者を支えていける関係をこれからも継続していきたい。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	面会や外出・外泊に特に取り決めはなく、自由に好きなときに、家族との時間を過ごしている。以前住んでいた場所に帰省したり、お墓参り・年末年始やお盆などは家族とともに過ごしたりしている。		必要に応じて、車椅子の貸し出しも行い、家族と共に外出をしている。できる限りサポートをしながら、利用者や家族の希望に合わせた関わりを続けていきたい。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	昔の仕事の同僚や、以前近所に住んでいた友人などの面会や、年賀状のやりとりがある。また、以前住んでいた地域に出掛け、昔を懐かしむ機会も作っている。		これまでの馴染みの方々やその場所との関係を大切に、繋がりが続けていけるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事の際、下膳を手伝ったり、体調の優れない利用者を感じたり利用者同士、お互いに助け合う場面が見られている。利用者の状態に応じ、職員が適度に介入することで、関りのきっかけとなることもある。		ともに生活をしている顔馴染みの関係をこれからも大切にし、職員は介入のみならず、場面に応じ、ときに見守りをしながら関わりを継続していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	来所持、または電話での応対時にも、相談に応じる姿勢を保ち、継続的な関わりを大切にしていきたい。		利用者やその家族の希望に応じ、いつでも気軽に相談できる体制をこれからも続けていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に利用者や家族から要望を伺うが、入居後にもケアプランの説明時にその都度、希望や要望・気になることなどを伺うようにしている。		希望や要望のみならず、ちょっとした疑問や気づきがないかなどもこちらから積極的に伺うように心掛けている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や、家族からの聞き取りを行うと共に、個別のシートを用い家族に入居時に記載をお願いしている。それらを元に利用者を知るための初めの関りのきっかけを作っている。		知り得た情報と、日々の関りの中からの発見を照らし合わせ、一人ひとりに合った生活を過ごせるよう努力していきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	今までの生活の流れも配慮しながら、習慣となっていることを続け、いまできる事・困難な事・状況を日々の関りや見守りを通じて把握している。		毎日、新聞に目を通す・好きなテレビ番組を観るなど、自宅にいるときからの習慣を続けていく中で、普段とその様子は変わりはないかなどの変化を気かけ、状態の把握に努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本人がよりよい生活が送れるよう、職員間の話し合いと同時に、家族からの要望・希望も取り入れて、ケアプランを作成している。また、毎月内容の説明をし、承諾を得てから署名をもらっている。		家族の面会時に毎月、ケアプランの説明を行っているが、遠方の方などその月に面会が難しい場合には、毎月の近況報告の手紙に同封し、返信用封筒にて署名後、返信してもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状況に合わせ、その都度話し合う場面を作り、ケアプランの立案に活かすなど、柔軟に対応している。		家族にも利用者の状況を伝え、その旨理解してもらった上で、収集した情報から新たに即したプランを立案し、プラン完成後も承諾をえてから経過を見ていくようにしている。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	日々の生活の様子やその中で新たな発見・気づきなど、ケアプランに沿った個別の記録を残し、それをカンファレンスの場で情報を共有しケアプランの見直しに役立てている。		個別の記録の他に、“連絡ノート”を活用し、その中にも関りの中から得た利用者の情報を記載し、関るスタッフが共通の情報をもち、利用者への対応を行うようにしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	遠方からの家族の訪問時には、希望に応じて宿泊できる部屋の提供を行い、落ち着いてゆっくり過ごしてもらおう努めている。		今後、状況をみながらショートステイの利用も検討し、利用者の希望に応じていけるよう努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向や希望・必要性に応じて検討し、支援をしていきたい。		地域のボランティアとの関わりを進めているところであり、利用者の生活の中に取り入れていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	今後必要時には、検討をし積極的に取り入れて支援をしていきたい。		必要に応じ、サービスの検討を行っていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は、職員の制度の理解を進めている段階であり、必要な利用者や家族には地域包括支援センターとの連携ができるよう支援をしていきたい。		地域包括支援センターとの協力により、成年後見人制度の講習を行い、理解を深めるとともに、今後役に立ていけるよう努力をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居前から通院している病院に、継続して定期的な受診をしている。受診時にはグループホームでの状態を報告したり、状態の相談を行っている。緊急時にも受け入れ体制が整っている。		入居前から状態を知っている病院に続けて通っていることで、病状の変化や、相談したいことが伝わりやすく、24時間受け入れ体制が整っている。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の症状や対応などについて、相談できる専門医があり、関わりのアドバイスや家族も同行し、気軽に相談ができる関係が築けており、診断や治療を受けられる体制が確保できている。		できる限り、家族も同行することで、本人のみならず家族の安心にも繋がっている。疑問に思う点は、その場で専門医に確認をし、納得したうえで治療が開始されている。その理解があることで、グループホームでの生活の状況も見えやすく、家族の協力が得られやすいことがある。
45	看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週に2回、医師・看護師の往診があり、状態の報告や相談できる機会がある。また、往診の他にも、電話での相談や緊急時などにも24時間、医師に連絡・相談できる体制が整っている。		往診時、個別の“健康管理記録”でのやりとりもあり、記録として残している。また、勉強会を通じて、往診の看護師より応急手当・急搬前の対応などについて学ぶ機会もある。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院中にも、病院に出向き状態を確認したり、病棟の看護師から情報収集を行っている。利用者の状態をふまえた上で、早期に退院できるよう家族も含め、入院先の医師と相談をし、働きかけを行っている。		医療機関との連携を密にとりながら、今後も利用者の状態に合わせた支援を行っていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	かかりつけ医からの状態の説明を家族と共に共有し、その利用者にとってどのように過ごすことが望ましいかの話し合いを繰り返し行い、その結果を往診の医師・看護師に報告・相談をして緊急時の対応に備えている。また、職員にも周知している。		利用者や家族・職員の不安や疑問を軽減するため、かかりつけ医や往診の医師・看護師とのやり取りを積極的にしながら支援をしていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	かかりつけ医との日々の連携を行っており、終末期にあたっては、本人・家族・医師・看護師・職員にて話し合いの場を持ち、検討を重ねて要望に沿えるよう努めている。		普段から、かかりつけ医や看護師との連携を密にとり、終末期を迎える利用者に対しての関わりについて話し合う場を作っている。また、他ユニットの事例検討を学び、職員が学ぶ機会を作っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人の意向を踏まえた上で、それまでの生活状況などの情報提供を家族や新たなケア関係者に報告し、情報交換を行い、利用者の混乱を最小限に留めるよう、十分な配慮を行う。</p>		<p>今後も本人の意向を踏まえたうえで、ケア関係者と情報交換を行い、生活が円滑に行えるよう調整を行っていききたい。</p>
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>トイレの誘導時には配慮をしながら、さりげなく声かけや誘導を行っている。また、個人情報の取り扱いについては、尊厳やプライバシーにも配慮をしながら対応を行うことを心がけている。</p>		<p>研修会や事例報告の場では、事前に家族の承諾を得ていたり、利用者の個人名などは伏せた状態で発表を行い、個人情報の取り扱いには留意をしている。また、記載物を破棄する際には、シュレッターを使用している。</p>
<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせた、利用者の意志を引き出しやすい声かけを行い、利用者が自身で選ぶことができる雰囲気と環境を作り、その場に合った関わりを行っている。</p>		<p>どの洋服を着たいか・何が食べたいか・何処に行きたいかなど、日々の生活の中で利用者を選択してもらう機会を作っており、これからも意志を尊重し関わりを持ち続けていききたい。</p>
<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の希望を踏まえ、その人らしく過ごせるよう日々の関わりの中から信頼関係を築き楽しみを持ちながら過ごしていけるよう、支援を行っている。</p>		<p>利用者の希望をくみ取りながら、これからも日々、関わりを持ち続けていききたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりに合わせて、行き付けの美容室や、近隣の床屋に出掛ける機会を作っている。また、訪問による美容院も活用したり、ボランティアで関わりを作る場もある。</p>		<p>今後も利用者の状態を踏まえながら、その方に合った関わりを大切に支援を続けていききたい。</p>
<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の食べたいものを献立に取り入れられたり、季節に応じた食事を提供できるように心がけている。また、職員と一緒に買物に出掛けたり、食事の支度・片づけを行っている。</p>		<p>季節の食べ物などを利用者教に教えてもらいながら取り入れることもあり、そのような利用者、職員との関係をこれからも大切にしていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	体調や病歴にも配慮をし、必要に応じその都度往診の医師に相談をし、利用者の習慣も取り入れながら、楽しく食事ができるよう努めている。		病気はあるが、正月にはお酒を呑んだり、おやつ提供の工夫など、利用者一人ひとりの状況に合わせて、楽しみを持ちながら生活ができるよう、これからも努めていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、排泄の状況を理解するとともに、利用者のサインや表情・行動などを見逃さず、さりげなく誘導を行っている。		できるだけトイレでの排泄ができるよう、トイレ時には腹部のマッサージを行ったり、一日の水分量も気にかけている。また、毎朝ヨーグルトや牛乳を勧め、気持ちよくトイレで排泄ができるよう、その人に合った支援を続けていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の日や時間は利用者に希望を聞きながら促している。毎日風呂を沸かしており、いつでも入浴ができる場面を作っている。		すすんで入浴することが難しい利用者については、同姓の職員で関わり、声をかけたり、入浴剤を使用し楽しみを持ち、入浴ができるよう、働きかけを行っている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者それぞれの生活習慣を把握し、その方に合った休息がとれるよう支援をしている。		夜間、目が覚めた利用者に対しては、それが空腹のサインであることもあり、軽めの捕食やスープ・ホットミルクなどを勧めながら、職員と過ごすなどの関わりを持っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりのできそうなことや、やりたいことなどを把握し、力が発揮できるよう支援を行い、尊厳の念や、感謝の言葉を忘れずに対応を行っている。		本人の意欲を引き出すような関わりを心がけており、その意欲が日々の生活の中に活かせ、楽しみを持ちながら過ごせるよう、これからも努めていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者一人ひとりのお金の扱い方などに関する状況を理解しており、支払う場面については、利用者を見守り、必要に応じて介入を行っている。		できることは見守りに関わり、利用者本人の意思を尊重して、これからも支援を行ってきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望にできるだけ沿えるよう、外出を楽しむ機会や、季節を感じる場面を作っている。		普段の関わりの中から、何処へ出掛けてみたいかなど話を聞き出し、状況に応じ個別に出掛けたり、他利用者も交えながら生活をともに過ごしている方同士、楽しみを共有できるよう、これからも関わりを大切にしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	利用者や家族の要望も聞きながら、家族にも呼びかけ、ともに外出を楽しむ機会を作っている。		行事として家族にも呼びかけを行い、外出を楽しむとともに、家族との時間も外出を通じて大切に過ごしていきたい。また、同じ時間を過ごすことで、職員や家族同士の交流にも繋がっていることから、これからも積極的にそのような機会を作っていきたい。
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	本人自ら電話を掛け、家族との繋がりを大切に過ごしている。また、家族に年賀状を書いたり、繋がりを大切に支援を行っている。		これからもそのような繋がりを大切に、定期的により取りが行えるよう支援をしていきたい。
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	面会時間などの取り決めを設けていないため、いつでも気軽に訪問ができる体制があり、面会時には好きな場所で、過ごすことができている。		面会時には、職員でお茶を差し入れ、大切な方々との時間をゆっくり過ごせるようにしている。利用者の部屋で過ごしたり、ホーム内や近所を散歩している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	配布された資料を読み、職員が共通の意識のもと、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		今後も“なぜ、行ってはならないか”など身体拘束についての意味も理解をし、ケアに取り組んでいきたい。
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	利用者が自由に外との行き来ができる関わりに努めており、鍵を掛けることが利用者に対して、与える影響を理解し日々、ケアに取り組んでいる。		鍵を掛けることで予測されることを職員が理解し、これからもケアを行っていききたい。
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	日中はどこで何を過ごしているかなどを気にかけて、部屋で過ごしている際には、利用者の生活を把握したうえで、適度に訪室をしている。夜間は巡回をし、安否確認を行っている。		利用者の安全を確保するために、内玄関には“センサー”の設置をしているが、そのセンサーに頼ることなく所在確認を行っている。
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	利用者の日々の状況を把握し、その中で安全に使うことができるか・認識はできているかなどを見極め、物品の保管・管理を行っている。		利用者の前から全て取り除いてしまうのではなく、利用者の状況を踏まえたうえで、使用時にはそばで見守りを行ったり状況を見極め、関わるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状態に応じて、食事の際、事前に食べやすい大きさにして提供をしたり、転倒が予測される方には、歩行時に見守りを行うなど未然に防ぐような取り組みを日々、行っている。		事故が起きたときに予測されることを職員が理解しており、未然にそれを防ぐために関わりの中で、取り組んでいる。また、勉強会の機会を通じて学ぶ機会を作っている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応の講習会を定期的に行い、心肺蘇生や避難訓練などを学ぶ機会を作っている。		勉強会の機会を通じて、往診の看護師から応急手当の方法や急変時の対応などを学んでおり、これからもそのような機会を設け、繰り返し行いながら、職員の意識が高められるように努めていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火器や避難路の確保などの点検も定期的の実施しており、利用者が安全に避難ができる方法を身に付けている。講習時には、町内の方にも呼びかけ協力を仰ぐとともに、地域との繋がりも大切にしている。		今後も継続して行い、日頃より地域の方々の協力が得られるよう、関わりを持ち続けていきたい。
72	リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者の日々の様子を伝える中で、起こり得るリスクについても説明をし、理解を得るようにしている。		家族の理解を得た上で、それぞれの利用者に合った生活が送れるよう、支援を行っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の日常の生活の中から、普段との変化を見逃さず、記録に残すようにしている。また、異変の発見時や気になる事などは、医療機関に連絡をとったり、職員間でも情報を共有するよう努めている。		普段の関わりの中から得る情報を、大切なものと捉え、異変に早急に対応ができるよう、これからも取り組んでいきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は、個人個人の内服薬の副作用・効力などの理解に努め、内服後の状況の観察をし、記録に残している。また、状況に応じて、内服薬の相談などを往診時に相談を行っている。		利用者の情報を伝えた上で、状態の変化での内服薬の相談や、心配なことなどをかかりつけ医や往診医に相談を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	食事の際、食物繊維を含む食材を取り入れたり、予防のため毎日牛乳やヨーグルトを勧めている。また、体操など適度に身体を動かす機会も取り入れるよう努めている。		その利用者に対しての便秘の原因を探り、未然に予防ができるよう個々に合わせた関わりを、これからも心がけていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	誤嚥の防止のため、食後の口腔ケアが必要なことを職員が理解しており、促しや介助を行っている。		出来るところは自力で行うようにし、不十分な箇所は介助を行っている。利用者の状態に合わせ、柔らかめの歯ブラシなどを使用している。また、義歯洗浄剤も活用し、清潔に義歯が保てるようにしている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立を作る際、食事のバランスを考えながら立てるとともに、利用者の好みも取り入れながら、楽しく食事がとれるよう努めている。水分も利用者の希望を聞きながら、いろいろな飲み物を用意し、こまめに勧めるようにしている。		一日の摂取状況をみながら必要に応じ、捕食を勧めたり栄養補助飲料も活用することもある。献立を作る際には、料理の本のカロリーやバランスを参考にしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、予防や対応方法を職員に周知している。札幌市からの通達事項は各フロアに配布し、職員が目を通し理解を深めるように努めている。		今後は定期的に勉強会や研修会を開き、さらに理解を深めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布きん・まな板の漂白を行ったり、食前・食後には塩素系漂白剤を薄めたものをスプレーし、テーブルや肘掛などを拭いている。また、調理品の作り置きはせず、毎食時に準備をしたものを提供している。		調理の際には、賞味期限などにも気に掛け、新鮮な食材で調理を行うようにしている。また、温めてから食べるものは、直前に火を通し、美味しい状態で食べられるように配慮をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇に花を植えたり、傍らにベンチを置くなどし、気軽に立ち寄れる雰囲気を作るよう努めている。		これからも工夫を凝らし、地域の方が気軽に立ち寄れる雰囲気を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日差しが強いときには、カーテンやすだれを使ったり、テレビは誰も観ていなければ、スイッチを消している。季節に応じた装飾品や写真・利用者の作品などを飾り、居心地よく暮らせる工夫を行っている。		利用者の作品を展示することで、他利用者や家族も気にかけて、喜ばれている。今後も季節感や、生活感を取り入れて利用者が居心地よく感じられる環境を作っていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファを置き、居間以外にも各所にソファを置くことで、人の気配を感じつつも、ひとりで過ごせる空間を確保している。		利用者の性格や、気分に合わせて、思い思いに過ごすことのできる環境作りにこれからも努めていきたい。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に利用者の使い慣れたものや、馴染みのものを持ち込み、今までの習慣も大切にしながら、居心地よく過ごせるよう努めていきたい。		できるだけ自分の家での生活に近付けるよう、家族の協力も得ながら、その人らしく過ごせるようこれからも支援をしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	適宜、換気を行い、においや空気のおよみに配慮をしている。居室や廊下には、室温・湿度計を設置し、利用者の状況や希望に応じて室温を調整している。また、冬場には加湿器を設置し、乾燥を防いでいる。		季節やその日の状態も気に掛け、利用者が快適に過ごす事ができるよう、配慮をしていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや廊下には手すりが付いており、利用者にとって使いやすい高さ・握りやすさで設置されている。車椅子の生活でも支障がないように、建物内は段差がないよう配慮している。		一階と二階の行き来の際には利用者の状態に合わせて、階段やエレベーターを使用し、利用者の安全や自立性を目指しながら、これからも関わっていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の理解の度合いを把握し、できることは自身で行うことを勧め、その環境作りに努めている。		利用者の事前の情報を参考にしながら、居室迷いが考えられる方には、その利用者の居室前に名前や写真の掲示やまた、目印となるものを置いたりしている。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇の花の手入れや畑の作物の収穫を行い、活躍できる場や楽しみを持って生活が送れるよう努めている。		玄関先で日向ぼっこをし、通りかかった方と挨拶を交わすこともある。また、玄関先のスペースを利用し椅子を並べてお茶を楽しんだり、夏には花火を行い夕涼みをしている。

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>日々の関わりや、家族からの情報などを元に出来るだけ利用者の意に沿って対応出来るよう職員同士の情報の共有、家族の協力を得ながら関わるよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>食事を一緒にとったり、何かをしながらでも会話を交わしたり、日常の中でそのような関わりが持たれている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>その人に合った生活のペースを把握し、時にはひとりで過ごす時間も大切にしながら関わりを持つよう努めている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>一緒に何かをしたり、その人に合った関わりを通じて新たな一面を発見したり、関わりのきっかけが出来ることもあり、これからも日々そのような対応を心掛けていきたい。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>希望があった際には、出来るだけ対応するよう努めている。訴えが困難な場合には、ホーム周りの散歩など、ご家族からの情報も取り入れながら関わられるよう努めている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>毎週の往診や、協力医療機関との連携を密にとり、異変があればすぐに相談が出来る体制が整っている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>その日の状況や、利用者の状態に合わせた対応が出来るよう、日々努めている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>利用者の日常の様子をお伝えするとともに、ご家族からも要望や気付いたことがないか伺うようにしたり、何かあれば、すぐに相談や連絡をいれることで家族の思いも聞くことが出来ている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>利用者の家族の他にも、昔からの友人、同僚や町内のボランティアの方々などの訪問が定期的にある。</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	運営推進会議がきっかけとなり、ホームの理解が得られたり、老人クラブへの参加、ボランティアさんの訪問など、少なからず地域との関わりが増えてきている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員同士の意見交換も日々行われており、質の向上に努めている。ストレスを発散できる場を設け、リフレッシュできるよう心掛けている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	できるだけ利用者の要望を取り入れ、その人に合った生活が送れるよう努めている。これからも、日々の関わりを通じて、利用者の声に耳を傾けながら関わっていききたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ご家族の方から、ありがたい言葉をいただいたこともあり、そのあたりは家族の協力、理解もあってのことだとは思っており、支えていただいていると実感する。しかし、その現状に甘んじることなく、これからも信頼、安心していただけるよう努力していききたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)